

(2) 清和っ子応援団づくり

地域人材を活用した保育・教育活動を拡充するために、清和っ子応援団づくりを進めた。昨年度新たに立ち上げた、清和地区保、小、中連携協議会ともリンクさせながら、豊富な経験と深い知識や優れた技能を持っておられる地域人材の保育・教育活動への参加を推進している。子どもたちは、地域の名人さんに学びながら、地域の人々に対する尊敬の念を抱き、地域を誇りに思う気持ちを高めることができている。



清和っ子応援団の方
による習字指導

(3) 家庭・地域と一体となった取組

保育所、小学校、中学校では、保育所・学級・学校便りなどで、子どもたちの育ちや学びの様子について家庭へ情報発信を行うとともに、互いの便りを交換し合っている。また、清和地区合同保健委員会の協議内容も必要に応じて各機関から家庭に知らせている。さらに、家庭の協力を得ながら、清和文楽の里まつりや薪文楽をはじめ、地域行事への子どもたちの参加を働きかけている。今年度は、町教育委員会の主催で「文楽合宿」が開催され、小学6年生と中学1年生が参加した。この事業は、清和文楽の後継者育成を視野に入れたものであるが、学校の取組と地域の教育力を活用した取組がつながり、保育所、学校、家庭・地域が一体となって、子どもを見守り、育てるという雰囲気の醸成にもよい影響を及ぼしている。

III 成果と課題 (○成果 ●課題)

1 視点1について

- [知]・[徳]・[体] の面における目指す子ども像を保育所、小学校、中学校で共有できた。そして、その実現のために連携カリキュラムを編成し、機関間で目標連携を図り、具体的な取組事項を明確にして共通実践に取り組むことができた。[知]・[徳]・[体] の面において、子どもたちは徐々に成長が見られる。
- 連携授業・保育の推進をとおして、保育・教育内容並びに子どもの発達に対する職員の理解が深まり、育ちや学びの連続性を意識した保育や授業についての意識が向上し、保育・教育内容、指導・援助方法の工夫改善につながっている。
- 地域の伝統文化について小学校、中学校で系統的に学ばせ、体験活動を充実させたことで、児童・生徒が自分の住む地域のひと、もの、ことの良さに気付き、ふるさとを誇りに思う気持ちが高まってきた。
- 保育所では、発達過程に応じた人と関わる力づくりに取り組み、小・中学校では9年間を見通して、人権教育の指導計画や『命を大切に作る心』を育む指導プログラムをつないだ実践が進んだ。そして、子どもたちの自他を大切にしようとする心や、互いにつながり支え合い、ともに生きる意識の醸成が図られている。
- 保育所、小学校、中学校の連携実践により、生活習慣や学習習慣、学習規律等に関する子どもや家庭の意識が高まり、その行動化が着実に進んでいる。
- 様々な教育活動において保育所、小学校、中学校における15年間の育ちを意識し、発達や学びの連続性を踏まえた保育・教育活動が実践できるよう、合同研修等の計

画的な開催と内容の工夫に努め、指導計画や体制等を充実させていく必要がある。

- 各機関における行動連携の更なる充実や継続のためには、打ち合わせの時間の確保とともに年間指導計画に連携授業等を位置づけるなどの工夫が必要である。

2 視点2について

- 円滑な接続に向けて、カリキュラムやプログラム等を編成したことで、各機関の接続期の取組内容が明確となり、系統的な実践に取り組むことができた。
- アンケートや入学に向けた学校説明会、家庭訪問等の実施により、保護者や子どもの不安感や困り感への対応を充実させることができた。
- 学校生活への接続と適応に関する職員の意識が高まり、これまでの取組内容の工夫改善が進み、入学後に起こりがちな問題行動や不適応がなく、安心して学校生活を送る児童・生徒の様子が見られた。
- 発達段階の異なる子どもたち同士の交流活動の計画的な推進が、子どもたちの上級生に対する憧れや下級生への思いやりの心などを育み、良好な人間関係づくりにもつながっている。
- 各機関の職員構成が変化しても、円滑な接続のための取組が継続できるよう、プログラムやカリキュラムを見直し改善したり、連絡体制・活動体制などを充実させたりする必要がある。
- 中学校では矢部高等学校との連携を意識してきたが、今後は、中、高の円滑な接続のために具体的な取組を進めていく必要がある。

3 視点3について

- 清和地区保、小、中連携協議会を立ち上げ、既存の組織と組み合わせたことにより、保育所、学校、家庭、地域をつなぐ基盤づくりが進んだ。そして、子どもの育ちや学びについて互いに意見を出し合う機会づくりができ、「目指す子ども像」の共有化を図ることができた。また、保育所、小学校、中学校の連携活動に対する人的・物的支援の充実にもつながった。
- 「目指す子ども像」の実現に向けたリーフレットを作成し、連携カリキュラムとともに各家庭や地域に配布して機会を捉えて啓発に努めたことにより、地域全体で子どもを見守り、育んでいこうという保護者や地域の意識が広がり始めている。
- 清和っ子応援団づくりを進めたことで、地域の優れた人材を新たに知ることができ、地域人材の活用が広がり、保育所、学校と地域のつながりが多面的になった。また、保育・教育活動に参加された方が、保育所や学校を身近に感じられ、多様な形で積極的に協力をしていただけるようになった。
- 清和地区保、小、中連携協議会の活動を充実させ、それを起点としながら地域の各種関係団体との連携を深める必要がある。
- 各機関が家庭・地域と連携している活動をまとめるとともに、各組織で共通理解を深め、地域全体を視野に入れた連携の充実や地域の教育力の活用に取り組む必要がある。